

## とおるさん家の他の住人を紹介！



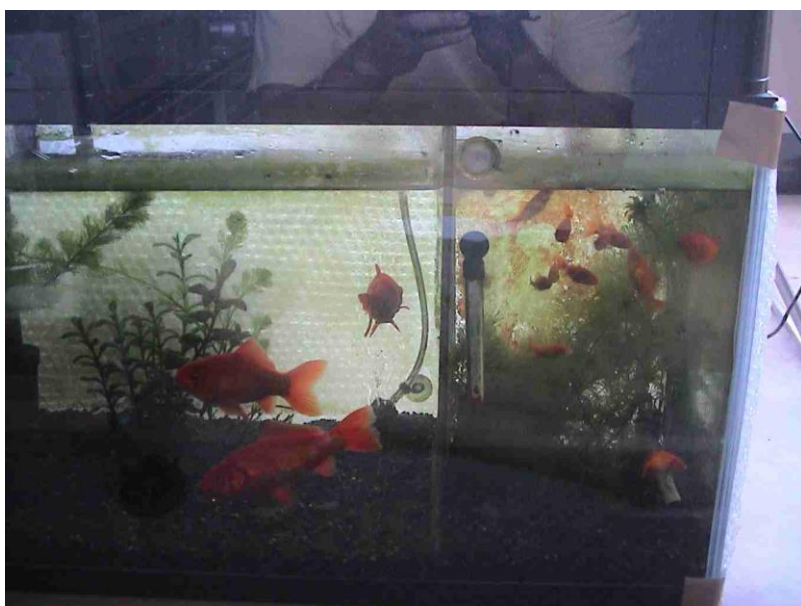
その名も「ハム太郎」。そのまんまです。娘にせがまれて買ってしまいました。正直言って可愛い。意外と懐くので面白いです。娘の手の中だとおとなしくしている。小生が触っても、まあまあおとなしくしていますが、ビールのおつまみなんかを触った手でいじるとガブリとやられます。(血が出るほど。結構痛い。)みなさんも、御注意を。



お食事中の、彼。場所はトイレです。あんまり行儀が良くないので、食べるのも、出すのも、一つとところで済ませちゃう。不精なんですかねー。暑い時は、ここで寝てたりする。学生の時の、誰かさんみたいだ。



ただいま、脱出中。ケージの周りは段ボールの城壁で嚴重にブロックされていますが、それでも、オイラはシャバに出たい。出せっ！出せっちゅーの！



こちらは3年目の住人でございます。あつしたちはもともとしががない3尾のお祭り金魚でやんす(左)。が、親分が結構世話してくれるもんで、居着いちゃいました。最初はケチな水槽で暮らしてましたが、精進が認められて大きなお家ももらいやした。元気が出てきたんで、ついがんばっちゃったら子供ができて(右)。。。20尾あまりも卵からかえって、そりやもう大変。(いかに子供とは言え、一緒に住まわせると食べられちゃうので、最初は別居。大きくなったら母屋を仕切って右と左にわけ、右側に子供達を入れました。こうすれば、水のろ過／循環／温度調節もひとつの水槽のできるの、エネルギーも節約できます。孵りたては全長数ミリの稚魚で、目ばかり大きく光って、まるでメダカみたいでしたが、だんだん大きくなり、しかも赤くなって来ました。今年でちょうど一年目です。最初はブラインシュリンプなんかをわざわざ繁殖させて与えてました。結構大変でした。)

ユニークな住人たちです。また未公開映像が撮れたら御紹介しましょう。(Part3 のおしまい:2002年6月23日)

## 二代目ハムすけの巻

とおるさんお嬢の秘蔵っ子、「ハム太郎」。二代目襲名以降、芸のみちに励んでめえりやした。



おいらは眠いんだ。放っておいておくんせえ。眠いんだってば。

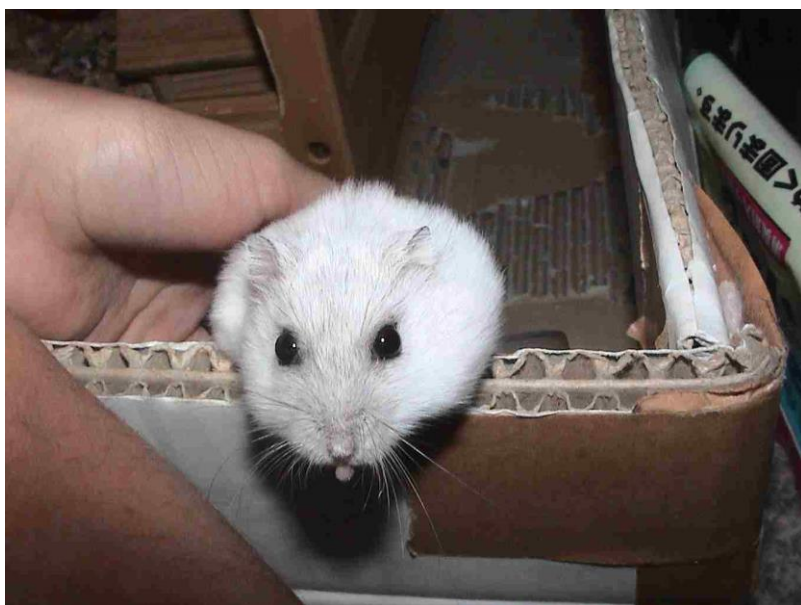


しかたねえなあ。お嬢さんの頼みとあっちゃ。ちょっとだけですぜ。





あそんでくれるんだったら早くシャバに出しておくれ。待ち切れねえ、めんどくせえ。こう、ガジガジっと。



ええい、やっとトビラが開きやしたか。そうこなくっちゃ。お次は塀も垣根もなんのその。あらよっと、、、、おっと、じゃましないでおくれよ。その手はなんすか、お嬢さん。



いやー、シャバの空気はいつだっていいもんだ。お嬢さん、今日はおきれいで。こちとらもちょっと毛づくろいでやんす。お又のあたりがこう、なんだか、痒くていけねえ。ごめんなすって。ちょっと向こうむいといっておくんなさいよ。



せっかくのシャバでんすが、いけねえ、ネズミ族の癖はなおんねえ。床下へごそごそっとしけこんで、と。

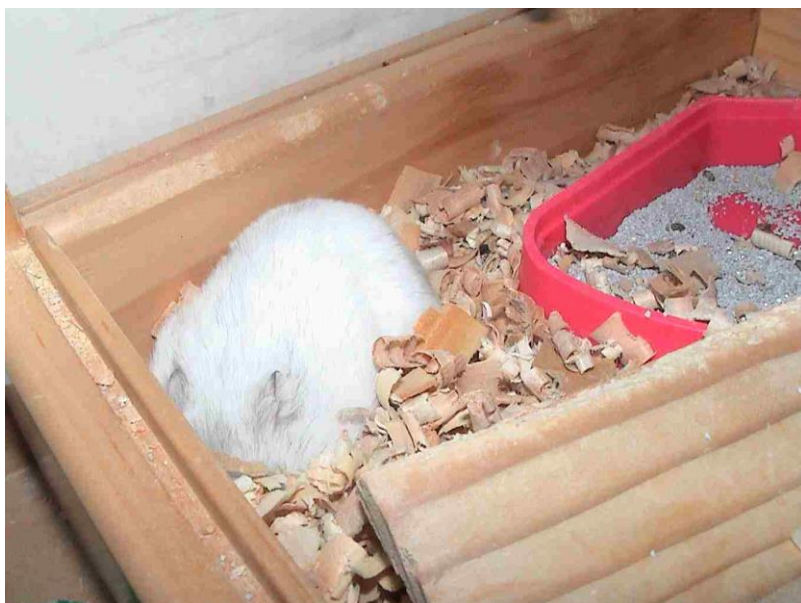


神出鬼没するのはこのことでき。うまいもんでんしょ。あたしゃこのデンで昔は鳴らしたもんでき。え、あつしの歳？たったの1歳と半年でんす。



お宝お宝♪

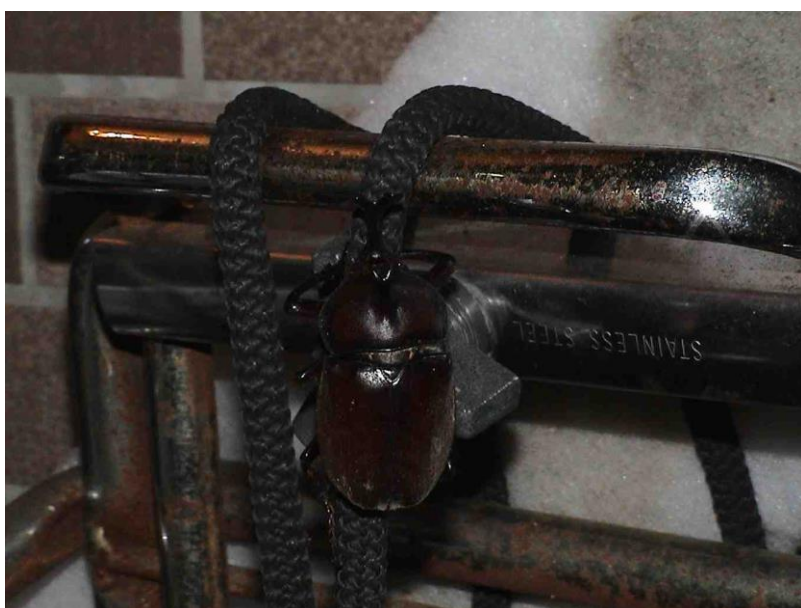




せっかく見つけたお宝でさ。うまいところへ隠すのも技のうち。(どこへ隠したか良く忘れるんですけどね。) またシャバへ出しておくんないよ、お嬢さん。すぱ一つとお宝失敬させていただきやんす。毎度あり～。

ち一つともじっとしていない二代目でありました。。。 (Part 3.1 の終わり: 2004.8.25)

## 2005 年夏の小さなお客さまたち



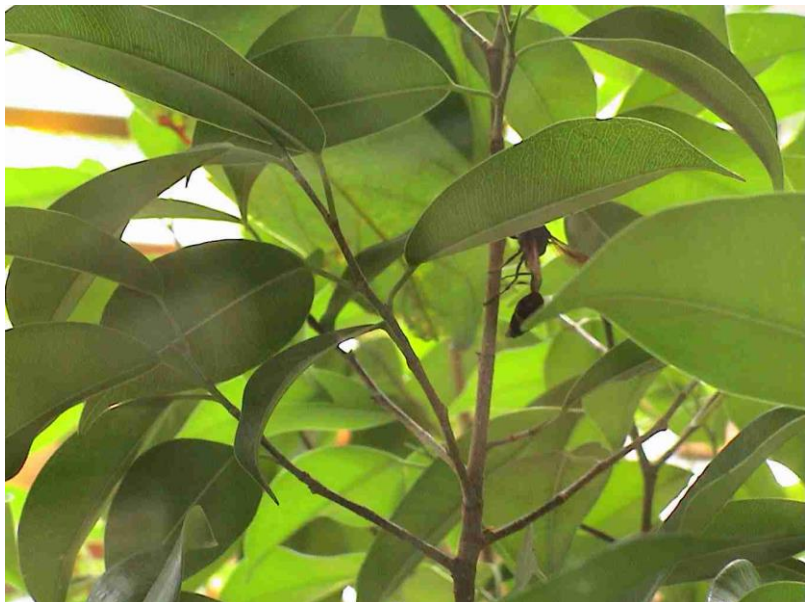
この夏、とおるさん家には実に多くのお客さまが来訪しました。話題には事欠かず、楽しい夏休みでした。まずは、ビートル軍曹奮闘記。このカブト虫、どこからまぎれこんだか、とおるさん家のベランダにおいてある荷物運搬用のカートにもぐりこんでいました。ある土曜の夕方、とおるさんが帰宅すると、お嬢および奥様がキャーキャーと騒いでいるのです。何だ？と見てみると、このカートの埃よけに被せてあった紙袋がモクモク・ガサガサと動いている、つつゆうわけです。「風ではためいているんじゃないの？」と、兎角面倒くさがりな亭主を気取っていたのですが、しばらくすると、何物かがこの紙袋を中から突き破って出てくる様子です。まずは堅い角が現れ、ビリビリと豪快に紙袋が破ける音、そしてダイナミックな脱出シーンに

転じました。さすがのとおりさんもギョっとしました。この時点で、お嬢・奥様のコンビはパニック状態。鳥か、はたまたゴキブリか、とんでもない物が出てくると思ったのでしょうか。お嬢なんぞは泣きべそかいてました。ここは一番、とおるさん家当主の面目気を引き締めて、紙袋をエイっと取り外す行動におよんだところ、この勇敢な軍曹がカートのとっぺんにしがみついているのを発見しました。どうやら、風に吹き寄せられてカートに被せてある紙袋の中に紛れ込んでしまったらしい。出口が見つけれず、とうとう天井を突き破るしかなくなったのでしょうか。大変な馬力です。ただの紙袋ではなく、下地にビニールがあって、これを自慢の角で切り裂いたというわけです。まるで、ブルース・ウィリスか、シルベスター・スタローンか、ハリソン・フォードのようなヒーローだ。急に紙袋を取りのけられたので、身の危険を感じたのか微動だにしない。霧吹きで水をかけても、砂糖水を垂らしても、死んだふりです。大した度胸。翌朝、どこへともなく旅立って行きました。



お次は、「キッド・カマキリ」の登場。このボク、裏のベランダに据付けのポーセラインオープンの上に陣取ってました。なかなか立派な面構え。まだ緑色もあざやかなので、今年孵りたてのルーキーなんでしょう。目一杯足を拡げ、お尻を反り返らせてこちらを威嚇しています。両の目玉は、はっきりとこちらにガン飛ばしており、なかなか威勢の良い面構えです。「何じゃワレ、見せもんやないねんで。早よう消えんかい。」と、若い鉄砲玉風情。見とれてしまいました。

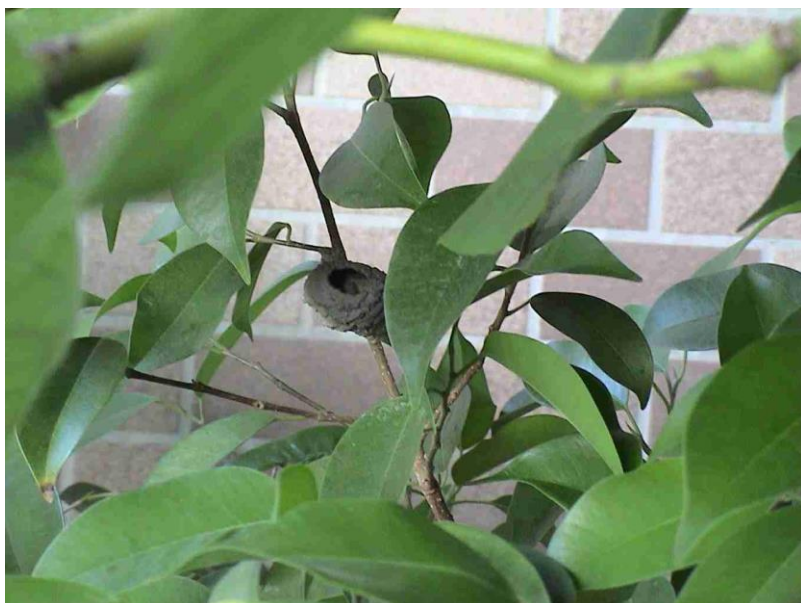




3番目のお客さまはトックリ蜂。とおるさん家のベランダのベンジャミンの木は、時折呉れてやる金魚鉢の水が良い栄養になっているのか、伸び放題。お盆の最中に、トックリ蜂のお母さんがしつこくこの木の枝振りをチェックしているので、ハテナ、と思ったお嬢と奥様が写真を撮りました。



しばらく気がつかない内に、枝の中程にこのような構造体が成長。これも、たまたま秋葉原に出かけていたとおるさんが帰宅したら、またしても二人でパニック状態。キヤーキヤー、見てみて、というわけです。「今度は何、この夏は。」と、促されるままに様子を確認しましたが、これにはとおるさんも大興奮。昔、隅から隅まで読んだ、ファーブル昆虫記を思い出しました。



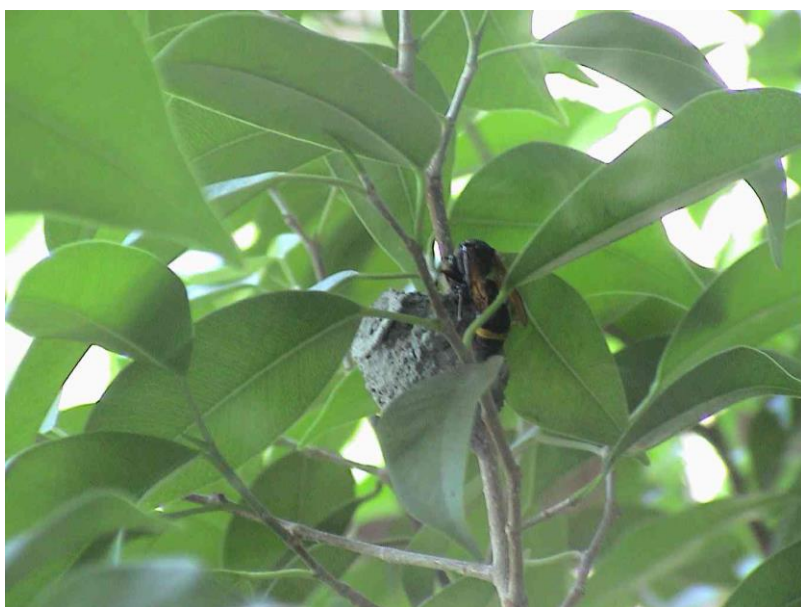
約五分程の間隔で、この働き者のお母さんバチはどこからともなく湿った粘り気のある泥をくわえて運んでくるのです。すごい重労働だと思うのですが、丹念に塗り付けては形を整え、この日の夕方と、次の朝にせっせと仕事を仕上げて徳利の巣を完成させました。



しばらく仕上げにかかったのち、巣のフチに留まり、お尻を突っ込んでジッとしています。多分、卵を産みつけたのではないかと思います。



このあと、お母さんバチはどこかへ飛んでいってしまい、しばらく戻ってこなかったので、留守の間に仕上がった巣をアップで撮影しました。見事と言う他ない出来映えです。良く見ると、徳利の口の内側のさらに上のほうに、なんとなく卵の房のようなものが見える気がする。接写できる高解像度のカメラがあれば、もっとうまく観察できたかもしれません。残念です。「ファーブル昆虫記」には、このあとお母さんバチが、麻酔をかけた芋虫やクモを運んで来てこのとつくりのなかに詰め込むことになっています。卵から孵ってくる幼虫のエサにするためです。エサになる麻酔状態の「生き餌」が詰め込まれたら、このとつくりの口にはフタがされるはずですが、しばらく待っていたが、お母さんバチはなかなか帰ってこない。きっと、いちばんおいしいエサを一所懸命探しているんでしょう。



3日後くらいのある日、お母さんバチが戻って来ました。とつくりのフチの周りにさらに泥だんごを塗り付けてクビを太くしています。枝からとつくりの巣が落ちないように、さらに補強工事もしたみたい。このあと、空いていたとつくりの口を封じて、どこへともなく去って行ってしまった。

とつくりの巣は、中に卵と生き餌を封じ込めたまま、静かに風に揺られています。このとつくりから、お母さんそつくりのハチが出てくるのはいつの日か？とおるさん家の窓の外、すぐ近くでじっと観察できます。台



風も間近にやって来ているが、このベランダなら雨風も吹き込まず安心です。ハチのお母さん、お目が高い、というか、安全な場所を一所懸命探し当てる勘は野生の知恵です。恐るべし。この夏は、ビートル軍曹、キッド・カマキリ、とっくりバチ母さん、と立続けに、思い掛けない訪問を受けたとおるさん家でした。  
(Part3.2 の終わり:2005.09.05)

**アーカイブの終わり (20161029)**